

年収150万円

で暮らす法

①

バブルがはじけた。
レイオフや高年者の退職勧奨も一部企業で始まり、デパートは消費停滞を嘆いている。しかし一方では「バブルの時は異常だった。これで地に足のついた暮らしになるのでは…」

ための仕事ごころだったのである。

十年ほど前から「な暮らし」というてまわっている。消費水準を下げ使わないようにすれば、当然、収めて済むわけで、

吉田 清彦

年収150万

吉田 清彦

バブルがはじけた
レイオフや高齢者の退
職勧奨も一部企業で始
まり、デパートは消費
停滞を嘆いている。し
かし一方で「バブル
の時は異常だった。こ
れで地に足のついた暮
らしになるのでは…」
といった声もよく聞か
れる。では本当に地に
足のついた暮らしと

は。神戸で「年収百五十万円で暮らす法」を実践
し、「スリムな暮らし」を提唱してきたフリーラ
イターの吉田清彦さんに、お金を使わず楽しく暮
らすノウハウと勘どころをつづってもらった。暮
らしにへばりついた「ゼイタク泡?」は洗い流せ
ますでしょうか。

物持ちから時持ちへ

確定申告の季節である。自由業の身としては、サラリーマンと違って、自分で所得を申告するほかはない。さまざまな仕事先から送られてくる支払い調書を基に書類を作成することになるのだが、私の昨年度の所得は、そのすべてをかき集めてみても七十三万円にしかない。

なぜ、こんなに所得が少ないのかというと、理由ははっきりしている。あまり、というか、ほとんど、仕事をしなかったからである。だからといって、体調を崩して寝込んだりしていたわけではない。数年前からかかわってきたいくつかのサークルでの仕事が一時に重なって忙しく、収入を得る

ための仕事どころではなかったのである。

十年ほど前から「スリムな暮らし」というのを説いてまわっている。できるだけ消費水準を下げ、お金を使わないようにする。そうすれば、当然、収入も少なくて済むわけで、働く時間減らすことができ、自分の時間が増えていくことに

これは、どう考えても異常なことである。人は、一日二十四時間のうち八時間も働けば十分である。残りの時間は、睡眠と休養、そして労働以外の自己実現にあてるべきであり、それが「人間らしい生き方」というものだろう、と私は思う。

かく言う私も、十年ほど前までは、仕事が目白くて、人並みに、あるいは、それ

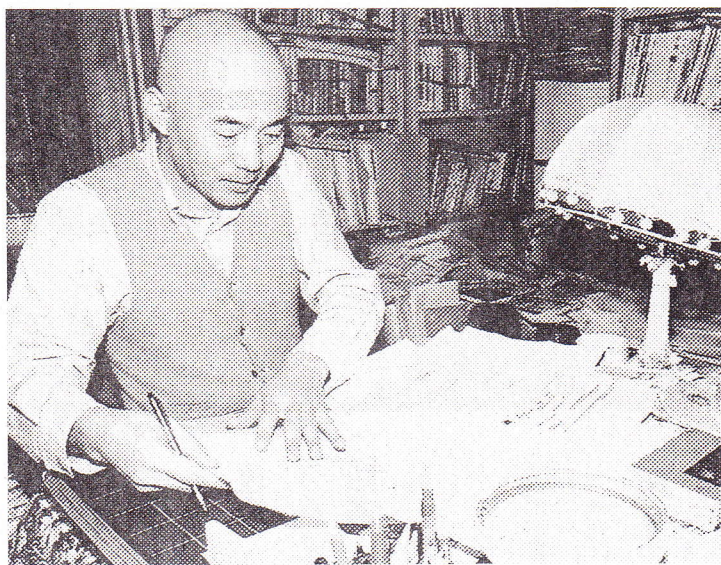
ところ、離婚を契機に、考え方が百八十度転換していく。ちょうどそのころから、いろんなサークルに首を突っ込んでいくことになるのだが、その結果、どんな時間が足らなくなっていく。

自分の時間を作ろうと思えば、働く時間を減らすしかない。自由業というのは、

その点便利である。入ってくる仕事を適当に断わればいい。だいたい月のうち十日から十五日働いて、あとはサークルの仕事にあてている。それで収入は十二万円から十三万円、年収にして百五十万円前後となる。

それで生活ができるのか
というと、十分に暮らしては
成り立つ。

バブルがはじけて、恒常的な経済成長という神話が壊れた今、豊かさを表す時代のキーワードは「金持ち」「物持ち」から「持ち」「人持ち」に変わりつつあるのではないだろうか。



8時間働けば十分

よしだ・きよひこさん
一九四四年兵庫県生まれ。神戸市立外国語大学中退。調理師、喫茶学校講師などを経て、飲食専門雑誌のフリーライター。著書に「喫茶店のすべて」「大阪居酒屋ガイド」など。W.e.の会やCMの中の男女役割を問ひ直す会、確信犯?シングルの会などに参加し、ミニコミにも盛んに寄稿している。

「確定申告の時は大変な
んですよ」と、原稿料な
どの源泉徴収票のメモを
並べて書類を作る吉田さ
ん（神戸市灘区の自宅）

▽毎週日曜日に掲載します。